

LIVE: THE BLUE HEARTS 1989.9.27, 28  
千葉県文化会館

9月27日千葉県文化会館でのTHE BLUE HEARTSのライブは「未来の僕らの午の中」ではじまった。なんともいえないままにつきつぎと歌がつづいていく。新しい曲「伝染病」もどうっていいことない。「卒業証書のうらがやに病原菌がついている」「原因不明の伝染病」だって、原因不明だなんて安易にきめつけてほしくないな。またつぎつぎと歌がつづいていく。マーシーの歌う「ブルースをけとばせ」になった。「70年なら一瞬の夢」から歌がはじまって「運命なんて自分できめてやる 運命なんて自分できめてやる 勇い日もあればいい日もあるだろう 晴れたり曇ったり 雨が降ったり 俺はビデオを見るのが好きだぜ 俺はホラーを見るのが好きだぜ 俺もミヤザキもたいてはかわらねえ 俺もミヤザキもアムタも同じだろう」というときになった。ここにきたとたん私は何千人もの観客の中に一人おいてまぼろしをくらって、空虛の穴におちこてしまった。私のまわりが無色で透明の生ぬるい闇になった。マーシーの歌を聴くのが「ちがう」といってはね返す。THE BLUE HEARTSのライブで初めて感じた拒否反応。そして、ライブが終わってもその闇から脱け出せることはできなかった。

私には、自分の部屋でテレビを見ていてマーシーの姿が見える。テレビでミヤザキの姿を見ているマーシーの姿が見える。そして、テレビの画面にうつっていること、テレビからきこえてくることを、現実存在しているというのみにして「俺もミヤザキもたいてはかわらねえ」と思っているマーシーの姿が見える。俺(マーシー)とミヤザキをそんなに簡単にいっしょにするな。アムタ(私)も同じだろうなんていうな。そんなのちっぴも自分の罪をみつめることになんかならない。マーシーの歌った9月27日の「ブルースをけとばせ」のなかのミヤザキは、いまはやりのミヤザキのイメージにすぎない。この日のライブではヒロトの歌で「イメージ」という歌もやった。そのなかで「中味がなくてもイメージがあればいい」というところがあがるが、まさにマーシーは中味の無いミヤザキのイメージと自分をいっしょくたにしてる。ミヤザキのことも歌ったことに「ちがう」といっているのではない。歌からことばだけを取り出してアムタ(私)というのは、それこそちがう。拒否反応が起きたのは、歌も演奏もいっしょになったステージのうえのマーシーから感じとれるものに反対したと思う。

9月28日千葉県文化会館での2日目のライブ。この日もつまらなかった。ライブのありたいはバリエーションでもはっているようだった。ステージのうえにヒロトがいるだけじゃ私には足りない。汗だくだくになって叫ぶように歌っているだけじゃ、私には足りない。ヒロトをつきまわって、むこうに宇宙が見えなくちゃダメなのだ。THE BLUE HEARTSがステージでうみ出すもの、耳にきこえたり目に見えたりするものじゃなくて、耳にきこえたり目に見えたりするものによってきこえてくるものや見えてくるものが欲しいのだ。だから、耳にきこえるものや目に見えたりするもの、ひとつも逃さないように耳も目もこらしているのだけど、それによってなんにもきこえてくさ、見えてこない、ほんやりとして日常の気分の中にいるのと同じでつまらない。

9月の!!!ライブ

- 1/22 インスタティックでライブ(ワンマン)
- 5/DOOM (インスタティック主演)すざうバースで果然、あとにやったBAD MESSIAHもなかなかだった。記事参照
- 9/ティラノザウルス、ポルティシ(原宿歩行者天国)ポルティシ、曲は音りものぶたが歌-観戦力がある。9/7, 9/14の歩行者天国もよかった。9/19ラマでライブ
- 9/2 RIP VAN WINK (渋谷ラマ)観客がまきこえてくるライブだった。あとにやったフレトリック!!!。10/31にラマでワンマンがあるとのこと。
- 9/16 ティラノザウルス (渋谷ラマ) 記事を読んでFをい。10/10ラマでライブ
- 9/11 THE BONES (原宿歩行者天国) まわりの騒ぎとかかわりなく歌も曲もよくきこえた。テープを買った。「涙あふれて」という歌が好き。10/15原宿歩行者天国
- 9/ 友部正人 (新大塚RS ART COURT) DAVE VAN RONKの前15曲やった。運来(15分くらいライブ)には涙があふれた。10/27, 28 RS ART COURTでライブ
- 9/23 THE STREET BEATS (田代野外音楽堂) イベントで8バンドやったが一番最後のTHE STREET BEATSだけがよかった。雨が気に付らないくらいに。
- 9/24 BURST HEAD (原宿歩行者天国) パンクを一点、つつかまえていようなバンド。
- 9/30 BOUND FOR GLORY (吉祥寺マンドラII) セッションライブ、河口修ニグレス、友部正人、下村謙、寺岡呼人、沖せいじ、伊藤孝、チャルズ清水、シェイ、など都合で最後のシバはまけなかったが3時間半。人生を生きたい感じ。

LIVE: ティラノザウルス 1989.9.16 渋谷ラマ

T・REXも知らない。マーク ボランも知らない。グラム・ロックもブギーもなんのことだかよくわからない。ただティラノザウルスというバンドに出会えたということ。9月10日、日曜日。原宿の歩行者天国で、炎天下。演奏する側もきく側も汗だく。ケバケバしい格好をして「軽蔑のまなざしを愛し合う」なんて歌う。実にきかせる。バンドの名前はティラノザウルスって書いてある。ひきこまれて30分くらいきいていて。で、9月16日に渋谷ラマでライブもやるとは知りながらあったので、家に帰って情報誌を見てみると、「マーク ボラン追悼ライブ グラム・ロック・イースター」となっていて、ティラノザウルスの他にマルコシアス・バンパというバンドも出るって書いてあった。しばらくあとでマーク・ボランというのはT・REXというバンドのヴォーカルで10年くらい前に死んだ人だということや、T・REXのTは TYRANNOSAURUSのTだということも教えてもらって始めて知った。ティラノザウルスがあんなによかったので T・REXもいいかもしれないと思ってSLIDERというCDを買ってきいてみる。THE BEATLESよりはいいな、でも別のCDもきいてみようという気になるほどではない。

で、前売券を買って9月16日ラマへ行ったら。この日はマークボランの命日なんだって。私はティラノザウルスがききたくて来たんだけど、死んだマーク・ボランが主役で、T・REXのコピーとかカバーとかばかりだったらやだな、なんて思いながら雨の中傘もせずに行列のなかで開場を待っていた。

ティラノザウルスはティラノザウルスのオリジナルをやった。一時間弱。歩行者天国できいたときはそんなに感じなかったのに、ギターが圧倒的で一瞬も目が離れなくなった。あのギター、魂を削っている。絶対に。この日の2,3日前から「魔王ルートヴィヒ 夢の王国の黄昏」(ジャン・デ・カール著)という本をとりつかれたようにくり返しくり返し読みかかっている。ギターを弾くことにとりつかれているようなティラノザウルスのギターに会って、ルートヴィヒのことが心にうかんできた。ルートヴィヒも鬼入られた人間、ステージのうえのティラノザウルスのギターも鬼入られた人間、私も鬼入られている時間 いちばん生きてると感じる。閉鎖的な心の革命ができてしまった。だからライブの最後にゲストのDER ZIBETのイツセイという人、ZIGGYの松尾崇仁も歌え、ティラノザウルス、マルコシアス・バンパ全員でT・REXを30分くらいやったのだが、私にはティラノザウルスのギター以外みんな色あせて見えた。ライブのあと大きな想いを抱いて、一人でそれを感じ考えながら帰った。現実の生活のなかで死滅してしまうまえに、なんとかこの想いを心のなかに定住させたかった。出会いも嘘115と、かもしれないから、

自分一人のために至居と上渡せるといふ王の奇癖については、いろいろ取り沙汰されているが、私には王の気持ちがよくわかる。こうすることによって王は役者と観客の邪魔になるものすべてを運じた。……ただ演劇作品とその役者、そして唯一の観客だけがある。そして私たちがその唯一の観客も、詩を現実だと思ってしまうような幻想の世界へいざなう。やがて午前4時ごろ最後の一幕が終わって幕が下りると、王の邪魔にならないように、舞台の隅にじと動かずにいるようにと命令された。王は芝居が終わると、幕を降ろすことを思い返すためであろうか、しばらく席を立たない習慣だった。それはまるで、現実にも立ち返ることが苦しみであるかのようなだった。

「魔王ルートヴィヒ 夢の王国の黄昏」より。

LETTER: ルートヴィヒからワークナーへ



「パルシナル」のすばらしい序曲、天の声にも似たハーモニーが鳴り響いたときに、幸せな一人の魂がとらわれていた官能的な戦慄について、素直に燃然と輝き舞臺のなかで思いを馳せています。ああ、あの夜は本当に幸運でした。

「この世の中というものは、崇高なものせんなく、輝くものを手にもとうとするのです。」

9/27, 28のTHE BLUE HEARTSの千葉のライブで、マーシーが「日曜日原宿へ行って歩行者天国でライブ」の話をきいて、それについて「ロックだ」とか「長カチカチしてよ」とか書いてあるけど、3号ではGADD GANGLのCD紹介、きかしているCD感想など